

2022年度第2四半期 決算説明資料

2022年11月9日
旭化成株式会社

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。
また、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

2022年度上期実績

- 売上高は為替の円安影響や石化製品市況の高騰等により増収、上期決算として過去最高
- 一方、営業利益は半導体不足の長期化、中国ロックダウン、ロシア・ウクライナ情勢に加えて、景気後退等による需要減速や原燃料価格高騰等の影響を受けたことや、「ヘルスケア」において前年同期に一時的なプラス要因等があったことにより、減益

2022年度通期予想

- 厳しい経営環境が下期も継続。「住宅」が堅調に推移し、「ヘルスケア」は下期の挽回により増益を見込むが、「マテリアル」はセパレータ事業や基盤マテリアル事業を中心に減益を見込み、全社では前期比で減益を見込む
- 原燃料価格の価格転嫁、コストダウン、適正水準の在庫管理等を徹底し、影響の抑制に努める一方、中計で掲げている事業ポートフォリオ転換の加速を図る

株主還元

- 2022年度の間配当は18円とし、年間配当は36円を予想（変更なし）
- 中計の株主還元方針に沿って、自己株取得も含めさらなる還元拡充を検討

中計の取り組みの進捗

- 住宅事業において北米で住宅の建築工事業を手掛けるFocus社を買収
- 水素関連事業の加速に向けて、水素製造用アルカリ水電解パイロット試験設備を着工

本日の説明のポイントをこのスライドにまとめている。

経営環境に関する足元の状況と今後の見通し

AsahiKASEI

- 経営環境の悪化に対し、原燃料価格の価格転嫁、コストダウン、適正水準の在庫管理、部材調達管理の強化等を徹底し、影響の抑制に努める

主な経営環境変化	影響のあるセグメント	足元の状況と今後の見通し
中国景気動向 (ロックダウンの影響等)	マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> 上期を中心に自動車関連製品やスマートフォン向け製品等の需要が減少、下期も中国の景気後退による需要減のリスクを注視
半導体不足	マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> 上期は影響が長期化し、自動車生産台数の減少に伴い自動車関連製品の需要が減少したが、下期は緩やかな改善を見込む
	ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> クリティカルケア事業において上期は除細動器の部材調達難による影響が継続したが、下期は改善を見込む
ロシア・ウクライナ情勢	マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> 上期は自動車メーカーの部材調達難から欧州を中心に自動車生産台数が減少し、自動車関連製品の需要減少があったが、下期は改善を見込む
原燃料・資材価格高騰	マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> 一般的に高水準の原燃料価格が継続する一方で、積極的に価格転嫁を進め、交易条件悪化を抑制
	住宅	<ul style="list-style-type: none"> 建築請負部門、建材事業を中心に、鋼材等の価格が高止まりの見通し 北米事業において、上期は木材市況の下落の一方、販売価格を維持し収益性が向上したが、下期は木材市況の下落に応じて販売価格の下落を見込む

3

1. 2022年度上期実績

P6	2022年度上期実績（連結）
P7～8	2022年度上期実績（前年同期比／前回予想比）
P9～11	営業利益の増減要因分析
P12	2022年度上期 前年同期比の営業利益動向（事業別）
P13	海外売上高
P14	連結損益計算書
P15	特別損益
P16	連結貸借対照表
P17	連結キャッシュ・フロー計算書

2. 2022年度通期予想

P19	2022年度通期予想（連結）
P20～21	2022年度通期予想（前期比／当初予想比）
P22～23	売上高・営業利益予想（事業別）
P24	2022年度上期実績 ⇒ 下期予想の営業利益動向（事業別）
P25	参考）リチウムイオン電池用セパレータの販売数量の動向
P26	参考）クリティカルケア事業の売上高・営業利益の動向
P27	株主還元

3. 参考資料

P29	開示区分の変更（2022年4月以降）
P30～36	セグメント別概況
P37	主なM&A案件（2021年4月以降）
P38	設備投資額、減価償却費、研究開発費
P39	主な設備投資案件
P40	トピックス（2022年4月以降）
P41～42	四半期売上高・営業利益推移（2019年度以降）
P43	新中期経営計画における成長牽引事業（GG10）
P44	注記
P45	IRカレンダー



1. 2022年度上期実績

2022年度上期実績（連結）

AsahiKASEI

- 売上高は為替の円安影響や石化製品市況の高騰等により全セグメントで増収
- 一方、営業利益は半導体不足の長期化、中国ロックダウン、ロシア・ウクライナ情勢に加えて、景気後退等による需要減速や原燃料価格高騰等の影響を受けたことや、「ヘルスケア」において前年同期に一時的なプラス要因等があったことにより、減益
- 四半期純利益は、営業利益の減少に加え、前年同期にVeloxis再編に伴う税金費用軽減の一部を計上した影響や政策保有株式売却益の減少等により減益

	2021年度上期	2022年度上期	増減額	前年同期比 増減率	2022年度上期 前回予想 (2022年8月発表)	増減額	前回予想比 増減率
売上高 (億円)	11,810	13,512	1,702	14.4%	13,870	-358	-2.6%
営業利益 (億円)	1,131	858	-273	-24.2%	863	-5	-0.6%
売上高営業利益率	9.6%	6.4%			6.2%		
EBITDA (億円)	1,851	1,707	-144	-7.8%			
売上高EBITDA率	15.7%	12.6%					
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (億円)	913	517	-396	-43.3%	528	-11	-2.0%
相場平均為替レート (USD/円)	110円	134円			132円		
相場平均為替レート (ユーロ)	131円	139円			139円		
国産ナフサ価格	50,600円/kl	83,800円/kl			83,800円/kl		
1株当たり配当金	17円	18円			18円		

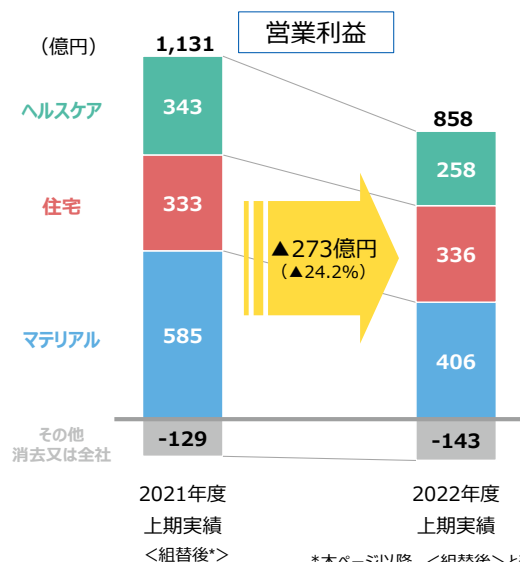
6

2022上期実績は、売上高が1兆3,512億円、営業利益が858億円、親会社株主に帰属する四半期純利益が517億円となった。四半期純利益については、前年同期913億円の中にはVeloxis Pharmaceuticals, Inc.（以下、Veloxis）再編に伴う税金費用軽減の一部が計上されていたが、それを除くと前年同期比で38%の減少となる。

2022年度上期実績（前年同期比）

AsahiKASEI

- デジタルソリューション事業や住宅事業、医薬・医療事業等が堅調に推移したが、経営環境の悪化や「ヘルスケア」の前年同期の一時要因等により、「マテリアル」と「ヘルスケア」で減益



セグメント別の主な要因

ヘルスケア：増収・減益

医薬・医療事業は、Bionovaの新規連結による減益影響がある一方、主力製品が好調に販売数量を伸ばし、増益。クリティカルケア事業は、前年同期の人工呼吸器特需の影響がなくなったことや買収影響等の一時要因に加え、部材調達難の影響等により販売数量が減少し、減益

住宅：増収・利益横ばい

不動産部門が減益である一方、建築請負部門が大型化・高付加価値化により平均単価が上昇したことに加え、北米事業が好調に推移し、横ばい

マテリアル：増収・減益

円安による価格の上昇や、石化製品市況の高騰等を受けた価格転嫁が進み、またデジタルソリューション事業が堅調に推移した一方、セパレータ等の販売数量が減少し、基盤マテリアル事業で交易条件が悪化したことにより、減益

*本ページ以降、〈組替後〉と表示している箇所では、過年度の実績について2022年度の開示区分変更を反映した数値を記載している

7

「ヘルスケア」の営業利益は、前年同期の343億円から258億円に減益となった。減益要因として、医薬・医療事業においては、米国Bionova Scientific, LLC（以下、Bionova）を2022年度より新規連結した影響がある。また、クリティカルケア事業においては、前年同期に人工呼吸器特需の影響があったことや、Itamar Medical Ltd.（以下、Itamar）の新規連結影響、そして前年同期にRespicardia, Inc.（以下、Respicardia）買収時の会計処理影響があったことなどの要因がある。これらを合計すると、100億円以上の減益要因となっている。価格転嫁や、Veloxisを中心とした医薬事業による増益貢献があったものの、減益要因が上回った。

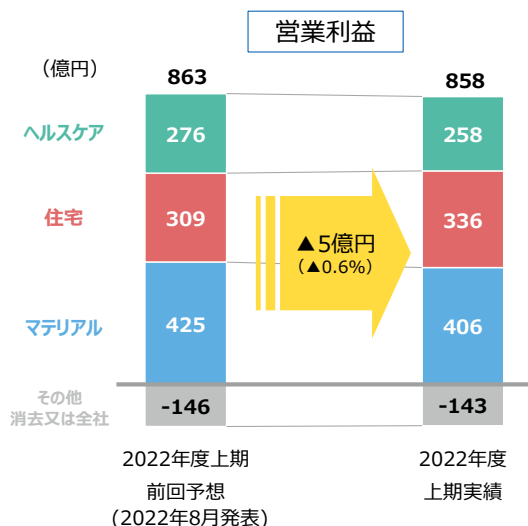
「住宅」の営業利益は、前年同期比で横ばいとなった。海外事業部門において、特に北米事業が好調に推移した。

「マテリアル」は、セパレータ事業で販売数量が減少し、アクリロニトリル（以下、AN）を中心に基盤マテリアル事業で交易条件が悪化したことにより、前年同期比で減益となった。

2022年度上期実績（前回予想比）

AsahiKASEI

- 「マテリアル」「ヘルスケア」で想定に届かなかったが、「住宅」は上振れし、全社ではほぼ前回予想並みの営業利益となった



セグメント別の主な要因

ヘルスケア：売上高、利益とも下振れ

プラノバの販売数量やBionovaの業績が想定を下回ったことに加え、クリティカルケア事業で部材調達難の影響の長期化により販売数量が想定を下回った

住宅：売上高、利益とも上振れ

建築請負部門の固定費減少や、北米事業で販売価格を想定より高く維持できたことで、上振れ

マテリアル：売上高、利益とも下振れ

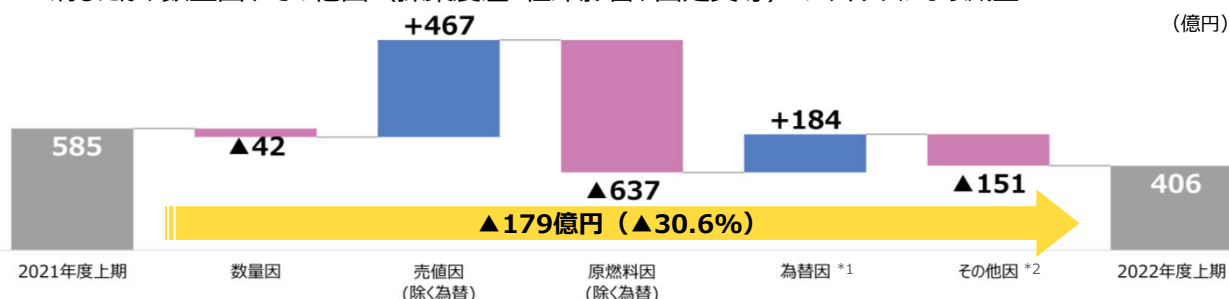
ライフィノベーション事業が堅調に推移した一方、基盤マテリアル事業やエンジニアリング樹脂の販売数量が下振れしたことに加え、セパレータの販売数量や操業度が想定を下回った

上期の営業利益は、8月発表予想（以下、前回予想）の863億円に対し、858億円と下振れした。「ヘルスケア」は前回予想比で若干下振れした。医薬・医療事業においてBionovaの販管費が為替影響もあり想定より増加したことや、クリティカルケア事業において部材調達難の影響が長期化し除細動器の販売数量が想定ほど伸びなかったためである。「住宅」は建築請負部門、海外事業部門ともに順調で、前回予想比で上振れした。「マテリアル」は、基盤マテリアル事業やエンジニアリング樹脂の販売数量が下振れしたことに加え、セパレータ事業の販売数量や操業度が想定を下回り、前回予想比で下振れした。

営業利益の増減要因分析（マテリアル）

AsahiKASEI

- ▶ 価格転嫁の推進や円安による売値因のプラスが原燃料価格高騰による原燃料因のマイナスを打ち消したが、数量因やその他因（操業度差・在庫影響、固定費等）のマイナスにより減益



売上高・営業利益増減内訳

		2021年度上期 ＜組替後＞		増減額	増減率	内訳				
		2021年度上期	2022年度上期			数量因	売値因 (除く為替)	原燃料因 (除く為替)	為替因*1	その他因*2
マテリアルセグメント	売上高	5,759	6,788	1,030	17.9%	-190	467	-	359	394
	営業利益	585	406	-179	-30.6%	-42	467	-637	184	-151
環境ソリューション	売上高	2,482	2,913	431	17.4%	-129	310	-	122	127
	営業利益	289	125	-164	-56.7%	-66	310	-594	93	94
モビリティ&インダストリアル	売上高	1,518	1,921	403	26.6%	-90	141	-	141	210
	営業利益	132	91	-42	-31.5%	7	141	-153	33	-69
ライフソリューション	売上高	1,756	1,952	196	11.2%	29	15	-	96	56
	営業利益	191	196	5	2.6%	17	15	-22	58	-64
マテリアル共通	売上高	3	3	0	-7.2%	-0	-	-	-	-
	営業利益	-27	-6	21	-	-	-	133	-	-112

*1 売値因・原燃料因に関連する為替因 *2 為替換算差、固定費差、在庫影響等

9

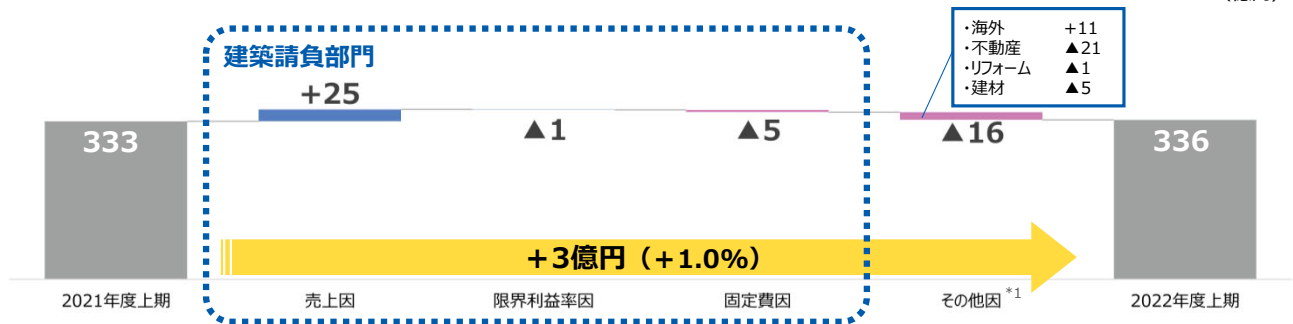
各セグメントの営業利益について、前年同期比の増減要因分析を説明する。「マテリアル」の営業利益は406億円で、前年同期比179億円の減益となった。数量因は42億円のマイナスである。売値因が467億円のプラスであるのに対し、原燃料因は637億円のマイナスであり、若干価格転嫁しきれなかった部分があるが、隣に示している為替因は、売値因と原燃料因に関連する為替因をネットした数値であり、これを含めて考えると、交易条件の悪化を免れたということになる。その他因は、販売数量が減少したことによる工場の操業度差や、増設した工場における固定費の増加、また一部の事業で海外での赤字が為替影響により拡大したことなどから、151億円のマイナスとなった。

営業利益の増減要因分析（住宅）

AsahiKASEI

- 建築請負部門における物件の大型化・高付加価値化による売上因のプラスが、資材価格高騰の影響やその他因のマイナスを打ち消し、利益は横ばい

(億円)



売上高・営業利益増減内訳

		2021年度上期 ＜組替後＞	2022年度上期	増減額	増減率	内訳			
						建築請負部門			その他因 ^{*1}
						売上因	限界利益率因	固定費因	
住宅セグメント	売上高	3,930	4,204	275	7.0%	78	-	-	196
	営業利益	333	336	3	1.0%	25	-1	-5	-16

*1 不動産、リフォーム、海外、建材等

10

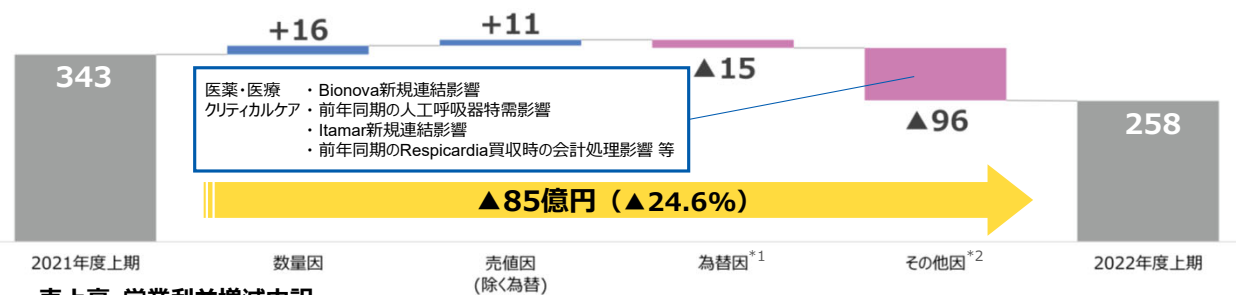
「住宅」の営業利益は336億円で、前年同期比3億円の増益と、ほぼ横ばいであった。建築請負部門では、以前より物件の高付加価値化・大型化に注力しており、工事件数は減少しても売上高を伸ばすことができたという成果が出ている。

営業利益の増減要因分析（ヘルスケア）

AsahiKASEI

- 医薬・医療事業は、主力製品が販売を伸ばし数量因がプラスとなる一方でBionovaの新規連結影響があり、クリティカルケア事業は、前年同期の人工呼吸器特需の影響やItamarの新規連結影響、Respicardia買収時の会計処理影響がなくなったことなど、その他因が大きくマイナス

(億円)



売上高・営業利益増減内訳

		2021年度上期	2022年度上期	増減額	増減率	内訳			
						数量因	売値因 (除く為替)	為替因 ^{*1}	その他因 ^{*2}
ヘルスケアセグメント	売上高	2,059	2,455	396	19.2%	34	11	-15	366
	営業利益	343	258	-85	-24.6%	16			-96
医薬・医療	売上高	853	989	136	15.9%	92	-9	1	51
	営業利益	136	146	10	7.3%	55			-38
クリティカルケア	売上高	1,205	1,466	260	21.6%	-57	19	-17	315
	営業利益	207	113	-94	-45.6%	-39			-58







*1 売値因に関連する為替因 *2 為替換算差、固定費差、ライセンス・導入・導出等の一時収益・費用、新規連結等

11

「ヘルスケア」の営業利益は258億円で、前年同期比85億円の減益となった。グラフ上で、その他因の96億円のマイナスの箇所、先ほど説明したさまざまな減益要因を記載している。これらの合計は100億円を超えるが、為替換算差等がプラスに効き、一部を相殺している。

2022年度上期 前年同期比の営業利益動向（事業別）

AsahiKASEI

利益動向		主な営業利益増減要因	
マテリアル	環境ソリューション		【セパレータ】 中国の景気後退や自動車減産の影響により、民生用途・車載用途ともに需要が減少し減益 【基盤マテリアル】 原燃料価格高騰を受けた交易条件の悪化や景気後退に伴う需要減速により減益（アクリロニトリルの原料市況リンクの販売価格フォーマチュラ進展により減益幅を抑制）
	モビリティ & インダストリアル		【自動車内装材】 自動車減産の影響がやや改善したこと等を受けて販売数量が増加した一方、原燃料価格高騰や物流費上昇等を受けて、前年同期並み 【エンジニアリング樹脂】 自動車減産の影響が長期化したことによる需要の減少により減益
	ライフィノベーション		【デジタルソリューション】 スマートフォン向け電子部品の販売数量の増加に加え、半導体市況活況の継続や、為替の円安影響等により増益
住宅	住宅		【建築請負】 資材高騰の影響を受けたが、物件の大型化・高付加価値化による平均単価の上昇により増益 【海外】 北米事業において、21/4Qの木材価格上昇に応じ22/1Qに価格転嫁が進んだことに加え、その後の木材価格下落の局面においても販売価格を維持したことにより増益 【不動産】 分譲マンション販売の引渡戸数の減少により減益
ヘルスケア	医薬・医療		【医薬】 活動強化や導入費用等の販管費が増加し、前年同期にあったライセンス収入の差異もあったが、Envarsus XRやテリボン等の主力製剤が販売量を伸ばし増益 【医療】 ブラノバの販売数量の増加や円安による換算差のプラス等がある一方、Bionovaの新規連結による減益影響や物流費上昇等のため減益
	クリティカルケア		【除細動器】 前年同期の人工呼吸器特需の影響がなくなったことに加え、部材調達難の影響による販売数量減等により減益 【Life Vest】 円安による換算差等があり、増益 【その他】 前年同期のRespicardia買収時の会計処理影響がなくなったことや、Itamar新規連結等の減益要因あり

海外売上高

AsahiKASEI

(億円)						
	2021年度上期 <組替後>		2022年度上期		前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
	海外売上高	海外売上高比率	海外売上高	海外売上高比率		
マテリアルセグメント	3,496	60.7%	4,021	59.2%	525	15.0%
環境ソリューション	1,549	62.4%	1,586	54.5%	38	2.4%
モビリティ&インダストリアル	1,159	76.4%	1,562	81.3%	403	34.8%
ライフインベーション	785	44.7%	869	44.5%	84	10.7%
マテリアル共通	3	100.0%	3	100.0%	-0	-7.2%
住宅セグメント	731	18.6%	968	23.0%	237	32.4%
住宅	731	19.5%	968	24.1%	237	32.4%
建材	-	-	-	-	-	-
ヘルスケアセグメント	1,565	76.0%	1,910	77.8%	345	22.1%
医薬・医療	370	43.4%	465	47.0%	94	25.4%
クリティカルケア	1,194	99.1%	1,445	98.6%	251	21.0%
その他	4	6.6%	5	8.1%	1	25.4%
合計	5,796	49.1%	6,904	51.1%	1,108	19.1%
地域別海外売上高						
アジア	2,551	21.6%	2,769	20.5%	218	8.6%
(内、中国)	1,176	10.0%	1,281	9.5%	105	8.9%
米州	1,896	16.1%	2,546	18.8%	650	34.3%
欧州	745	6.3%	848	6.3%	103	13.8%
その他海外	604	5.1%	741	5.5%	137	22.6%

13

上期の海外売上高比率は51%であった。為替の影響もあり前年同期から微増しているが、特に大きな変化はない。

連結損益計算書

AsahiKASEI

前年同期比の主な増減要因

- 販管費 : 円安により海外子会社の販管費の換算額が増加した他、新規連結因などにより増加
- 営業外損益 : PTT旭ケミカルの利益減少等により持分法投資損益が悪化
- 特別損益 : 火災損失の計上、政策保有株式の売却益の減少、段階取得に係る差益の減少等により利益が減少

(億円)

	2021年度上期		2022年度上期		増減額	増減率
		売上高比率		売上高比率		
売上高	11,810	100.0%	13,512	100.0%	1,702	14.4%
売上原価	7,950	67.3%	9,484	70.2%	1,534	19.3%
売上総利益	3,860	32.7%	4,028	29.8%	168	4.3%
販管費	2,729	23.1%	3,170	23.5%	441	16.2%
営業利益	1,131	9.6%	858	6.4%	-273	-24.2%
営業外損益	61		6		-55	
(内、持分法投資損益)	(50)		(23)		(-27)	
経常利益	1,192	10.1%	864	6.4%	-328	-27.5%
特別損益	-0		-57		-56	
税前利益	1,192	10.1%	807	6.0%	-385	-32.3%
法人税等	-268		-283		-15	
非支配株主に帰属する四半期純利益	-11		-7		4	
親会社株主に帰属する四半期純利益	913	7.7%	517	3.8%	-396	-43.3%

14

営業外損益では、持分法投資損益が悪化した。これは主にPTT Asahi Chemical Company Limitedが製造・販売するANの収益が悪化したためである。

特別損益

AsahiKASEI

(億円)			
	2021年度上期	2022年度上期	増減
投資有価証券売却益	61	22	-39
固定資産売却益	3	10	7
受取保険金	-	18	18
段階取得に係る差益	17	-	-17
特別利益	81	50	-31
投資有価証券評価損	0	14	14
固定資産処分損	29	33	4
減損損失	2	0	-1
火災損失	-	41	41
事業構造改善費用	51	19	-32
特別損失	82	107	25
特別損益	-0	-57	-56

15

特別損益はネットで57億円の損となり、前年同期比で56億円悪化した。特別利益においては、これまで進めてきた政策保有株式の売却が一段落したため投資有価証券売却益が減少している。特別損失においては、宮崎県延岡市のベンベルグ工場火災に関連する一部固定費の振替や、復旧に掛かる費用等を、火災損失として41億円計上している。

連結貸借対照表

AsahiKASEI

- 総資産 : 円安に伴い海外子会社の資産が増加したことに加え、原燃料価格高騰により棚卸資産が増加
- 負債 : 有利子負債の増加に加え、円安に伴い海外子会社の負債が増加
- 純資産 : 四半期純利益の計上があったほか、円安に伴いその他の包括利益累計額（為替換算調整勘定）が増加

(億円)

	2022/3月末	2022/9月末	増減		2022/3月末	2022/9月末	増減
流動資産	13,342	14,765	1,423	負債	16,303	17,505	1,202
現金及び預金	2,446	2,433	-14	流動負債	9,239	9,344	106
受取手形、売掛金及び契約資産	4,346	4,518	172	支払手形及び買掛金	1,781	1,934	153
棚卸資産	5,402	6,484	1,081	その他	7,458	7,410	-48
その他	1,147	1,331	184	固定負債	7,064	8,161	1,096
固定資産	20,149	22,142	1,994	純資産	17,188	19,403	2,215
有形固定資産	8,052	8,495	442	株主資本	14,594	14,875	282
無形固定資産	8,368	9,845	1,477	資本金	1,034	1,034	-
投資その他の資産	3,728	3,802	74	資本剰余金	799	798	-0
				利益剰余金	12,823	13,103	280
				自己株式	-62	-60	2
				その他の包括利益累計額	2,280	4,195	1,915
資産合計	33,491	36,908	3,417	非支配株主持分	314	332	18
				負債純資産合計	33,491	36,908	3,417
のれん残高	4,313	5,267	953				
有利子負債 ^{*1}	7,663	9,104	1,441				
D/Eレシオ	0.45	0.48	0.02				

*1 リース債務除く

16

2022年3月末と9月末を比較すると、総資産は3,417億円増加した。資産では、流動資産の棚卸資産が1,081億円増加している。負債も増加したほか、純資産では、その他の包括利益累計額が為替換算差等により増加している。結果として、2022年9月末のD/Eレシオは0.48となった。なお棚卸資産については、2022年度末に向けて適正水準の在庫管理を徹底していく。

連結キャッシュ・フロー計算書

AsahiKASEI

- ▶ 営業CF：税金等調整前四半期純利益の減少に加え、棚卸資産の増加やVeloxis再編関連の税金支払の増加等があり、キャッシュ・アウトに転じた
- ▶ 投資CF：Bionova買収によるM&A関連の支出等により前年同期比でキャッシュ・アウトが増加
- ▶ 財務CF：配当金の支払いの一方、資金調達の実行によりキャッシュ・イン

(億円)

	2021年度上期	2022年度上期	増減
a. 営業活動によるキャッシュ・フロー	767	-37	-804
b. 投資活動によるキャッシュ・フロー	-916	-1,312	-397
設備投資による支出	-800	-861	-62
M&A関連による支出	-199	-424	-225
その他	82	-28	-110
c. フリー・キャッシュ・フロー (a+b)	-149	-1,349	-1,200
d. 財務活動によるキャッシュ・フロー	63	1,063	1,000
e. 現金及び現金同等物に係る換算差額	2	268	266
現金及び現金同等物の増減額 (c+d+e)	-84	-18	66

17

営業活動によるキャッシュ・フローは、棚卸資産等の増加により37億円のキャッシュ・アウト、投資活動によるキャッシュ・フローは、Bionovaの買収等を含め1,312億円のキャッシュ・アウトとなり、フリー・キャッシュ・フローが前年同期比で悪化した。下期は運転資金の削減も含め管理を強化し、キャッシュ・フローの改善に努める。



2. 2022年度通期予想

2022年度通期予想（連結）

AsahiKASEI

- ▶ 上期に引き続き厳しい経営環境を想定し、「マテリアル」の減益により全社での減益を見込む
- ▶ 半導体不足影響の長期化や原燃料価格の高止まり、景気後退等の経営環境の変化は今後も注視
- ▶ 2022年度の年間配当は36円を予想（5月公表から変更なし）、中計の株主還元方針に沿って、自己株取得も含めさらなる還元拡充を検討

	2021年度	2022年度 予想	増減額	増減率	2022年度 当初予想 (2022年5月発表)	増減額	増減率
売上高 (億円)	24,613	28,510	3,897	15.8%	27,310	1,200	4.4%
営業利益 (億円)	2,026	1,770	-256	-12.7%	2,105	-335	-15.9%
売上高営業利益率	8.2%	6.2%	-2.0%		7.7%	-1.5%	
EBITDA (億円)	3,508	3,520	12	0.3%	3,690	-170	-4.6%
売上高EBITDA率	14.3%	12.3%	-1.9%		13.5%	-1.2%	
親会社株主に帰属 する当期純利益 (億円)	1,619	1,290	-329	-20.3%	1,645	-355	-21.6%
EPS (円)	116.68	92.98			118.58	-25.60	-21.6%
のれん償却前EPS (円)	137.14	119.65			139.63	-19.98	-14.3%
相場平均為替レート (USドル)	112円	137円			115円		
相場平均為替レート (ユーロ)	131円	139円			130円		
国産ナフサ価格	56,700円/kl	76,800円/kl			70,000円/kl		
1株当たり配当金	34円	36円 (予想)			36円 (予想)		

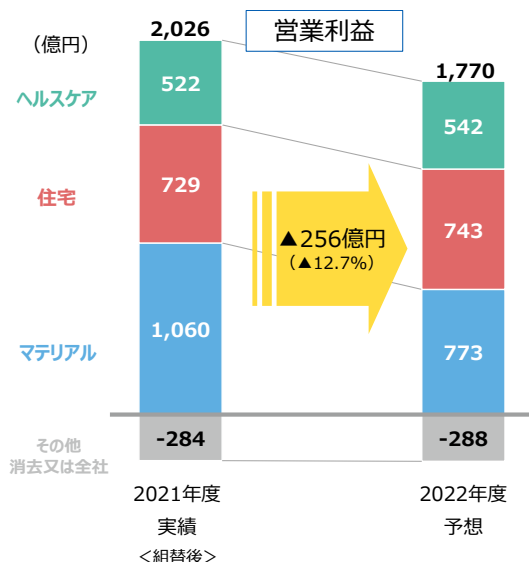
19

2022年度通期業績は、売上高は2兆8,510億円で、過去最高を予想している。営業利益は1,770億円で、前期比で12.7%減益の予想だ。売上高営業利益率が低下している点は課題だと考えている。当期純利益は1,290億円で、前期比で20.3%減益の予想だ。

2022年度通期予想（前期比）

AsahiKASEI

- ▶ デジタルソリューション事業や住宅事業、医薬・医療事業等が堅調に推移する一方、経営環境の悪化により「マテリアル」の減益を見込む



セグメント別の主な要因

ヘルスケア：増収・増益

クリティカルケア事業は、下期に販売数量を伸ばし上期の減益を挽回するものの通期では減益を見込む。しかし、医薬・医療事業は、Bionovaの新規連結による減益影響があるが主力製品が好調に販売数量を伸ばし、全体では増益を見込む

住宅：増収・増益

建築請負部門は資材高騰影響により減益を予想するが、海外事業部門が牽引し、全体では増益を見込む

マテリアル：増収・減益

円安による価格の上昇や、石化製品市況の高騰等を受けた価格転嫁が進み、デジタルソリューション事業において販売数量が増加する一方、セパレータの販売数量の減少や操業度の低下、基盤マテリアル事業やエンジニアリング樹脂の販売数量の減少や交易条件の悪化等により減益を見込む

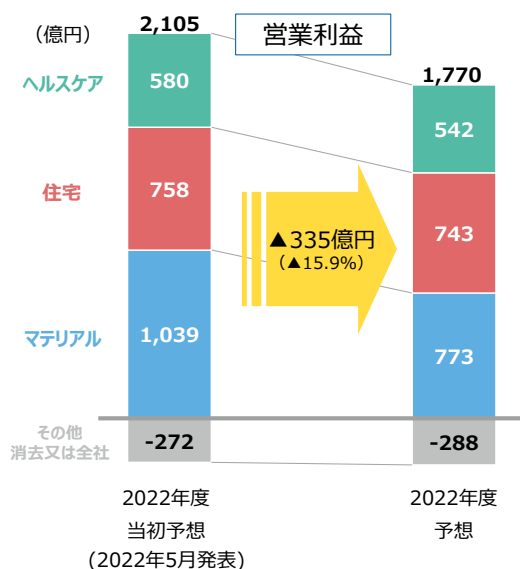
20

通期の営業利益について、「ヘルスケア」は、前期の522億円から542億円へ増益を予想する。医薬・医療事業は、Bionovaの新規連結による減益影響等があるものの、Veloxisも含め堅調に推移し増益を予想する。クリティカルケア事業は、上期の影響が残り減益を予想するものの、下期は販売数量を伸ばして挽回していく。「住宅」は、着実に業績を伸ばし、前期の729億円から743億円へ増益を予想する。「マテリアル」は、前期の1,060億円から773億円へ減益を予想する。下期も厳しい経営環境が継続し、需要もあまり回復しない見通しの中、セパレータ事業、基盤マテリアル事業、エンジニアリング樹脂等の販売数量が前期比で減少すると見ている。

2022年度通期予想（当初予想比）

AsahiKASEI

➤ 円安影響がある一方、「マテリアル」を中心に経営環境の悪化を受けて、営業利益を下方修正



セグメント別の主な要因

ヘルスケア：売上高 上方修正・利益 下方修正

医薬・医療事業は、医薬事業が主力製品の販売が堅調に推移する一方、医療事業において当初予想には織り込んでいなかったBionovaの新規連結による減益影響があり、下方修正。クリティカルケア事業は、除細動器やLifeVest等の主力事業の業績改善が想定よりも遅れ、下方修正

住宅：売上高 上方修正・利益 下方修正

北米事業が上方修正となるが、建築請負部門や建材事業で資材高騰影響を受け、下方修正

マテリアル：売上高 上方修正・利益 下方修正

円安による価格の上昇や、石化製品市況の高騰等を受けた価格転嫁が進む一方、半導体不足による自動車減産の長期化に伴うセパレータやエンジニアリング樹脂等の販売数量減少や、基盤マテリアル事業における需要の減少や交易条件の悪化により下方修正

21

通期の営業利益予想は、5月発表予想（以下、当初予想）比では2,105億円から1,770億円への下方修正となった。すべてのセグメントにおいて下方修正している。「ヘルスケア」は、クリティカルケア事業において、除細動器の部材調達難の長期化やLifeVestの業績改善遅れの影響を特に上期に受けており、下期は改善するものの、通期としては下方修正となった。「住宅」は、住宅事業は当初予想並みである一方、建材事業で資材高騰影響による業績悪化を見込んでいる。「マテリアル」は、厳しい経営環境が続く見通しだ。

売上高予想（事業別）

AsahiKASEI

(億円)

	2021年度 ＜組替後＞			2022年度 予想			前期比 増減額	前期比 増減率	2022年度 下期予想 - 上期	2022年度 当初予想 (2022年5月発表)
	上期	下期		上期	下期予想					
マテリアルセグメント	5,759	6,341	12,100	6,788	7,422	14,210	2,110	17.4%	633	13,930
環境ソリューション	2,482	2,745	5,226	2,913	3,177	6,090	864	16.5%	265	6,200
モビリティ&インダストリアル	1,518	1,703	3,221	1,921	2,119	4,040	819	25.4%	198	3,700
ライフインベーション	1,756	1,890	3,646	1,952	2,118	4,070	424	11.6%	167	4,020
マテリアル共通	3	4	7	3	7	10	3	42.1%	4	10
住宅セグメント	3,930	4,295	8,224	4,204	4,746	8,950	726	8.8%	541	8,650
住宅	3,758	4,107	7,865	4,010	4,540	8,550	685	8.7%	530	8,250
建材	171	188	359	194	206	400	41	11.4%	12	400
ヘルスケアセグメント	2,059	2,100	4,159	2,455	2,745	5,200	1,041	25.0%	290	4,580
医薬・医療	853	888	1,742	989	1,071	2,060	318	18.3%	82	1,940
クリティカルケア	1,205	1,212	2,417	1,466	1,674	3,140	723	29.9%	208	2,640
その他	63	67	130	65	85	150	20	15.6%	21	150
合 計	11,810	12,803	24,613	13,512	14,998	28,510	3,897	15.8%	1,485	27,310

営業利益予想（事業別）

AsahiKASEI

(億円)







	2021年度 ＜組替後＞			2022年度 予想			前期比 増減額	前期比 増減率	2022年度 下期予想 -上期	2022年度 当初予想 (2022年5月発表)
	上期	下期		上期	下期予想					
マテリアルセグメント	585	474	1,060	406	367	773	-287	-27.1%	-39	1,039
環境ソリューション	289	200	489	125	88	213	-276	-56.4%	-37	423
モビリティ&インダストリアル	132	125	258	91	73	164	-94	-36.3%	-17	238
ライフイノベーション	191	157	348	196	190	386	38	10.8%	-6	374
マテリアル共通	-27	-8	-35	-6	16	10	45	-	21	4
住宅セグメント	333	396	729	336	407	743	14	1.9%	71	758
住宅	320	386	706	329	396	725	19	2.7%	67	725
建材	12	11	23	7	11	18	-5	-21.7%	4	33
ヘルスケアセグメント	343	179	522	258	284	542	20	3.9%	25	580
医薬・医療	136	83	218	146	110	256	38	17.3%	-35	283
クリティカルケア	207	96	303	113	173	286	-17	-5.7%	60	297
その他	17	24	41	17	14	31	-10	-24.7%	-3	25
消去又は全社	-146	-179	-325	-160	-159	-319	6	-	1	-297
合 計	1,131	895	2,026	858	912	1,770	-256	-12.7%	54	2,105

23

「マテリアル」の上期から下期にかけての営業利益動向について補足する。環境ソリューション事業は上期の125億円に対し下期は88億円、モビリティ&インダストリアル事業は上期の91億円に対し下期は73億円と、それぞれ減益を予想している。ライフイノベーション事業は、好調な分野もあり、上期から下期にかけてはほぼ横ばいの予想だ。上期から下期への減益においては、特に環境ソリューション事業において、事業そのものの回復の遅れに加えて、在庫受払差のプラス影響が無くなることも大きな要因となっている。

2022年度上期実績 ⇒ 下期予想の営業利益動向（事業別）

AsahiKASEI

		利益動向	主な営業利益増減要因
マテリアル	環境ソリューション		【セパレータ】 車載用途・民生用途共に需要が回復し増益を見込む。但し、半導体不足等による自動車減産の長期化や世界的な景気後退における需要減リスクを注視 【基盤マテリアル】 交易条件悪化や在庫受払差の利益減少により減益を見込む
	モビリティ & インダストリアル		【自動車内装材】 半導体不足の影響緩和を受けた販売数量の増加や交易条件の改善により増益を見込む 【エンジニアリング樹脂】 半導体不足の影響緩和を受けた販売数量の増加の一方、ナイロン66等の原料事業の交易条件の悪化や在庫受払差の利益の減少により減益を見込む
	ライフイノベーション		【デジタルソリューション】 中国ロックダウンで影響を受けた一部の電子材料の販売数量が改善し、増益を見込む 【コンフォートライフ】 ベンベルグの火災影響や他事業の交易条件の悪化、固定費増加などにより減益を見込む
住宅	住宅		【建築請負】 資材価格高騰の影響を受けるが、物件の大型化により平均単価が上昇することに加えて、下期は工事件数が多いことから増益を見込む 【海外】 北米事業において木材価格の下落に伴い販売価格が下がることを想定し減益を見込む 【不動産】 分譲マンション販売戸数が下期に多く、増益を見込む
ヘルスケア	医薬・医療		【医薬】 Envarsus XR等の主力製品の堅調な販売やライセンス収入の増加を見込む一方、導入や研究開発などの販管費が下期に多く減益を見込む 【医療】 原燃料価格の高騰および物流費の上昇により減益を見込む
	クリティカルケア		【除細動器】 部材調達難の影響が改善し、販売数量が増加することから増益を見込む 【Life Vest】 販管費の増加等により減益を見込む

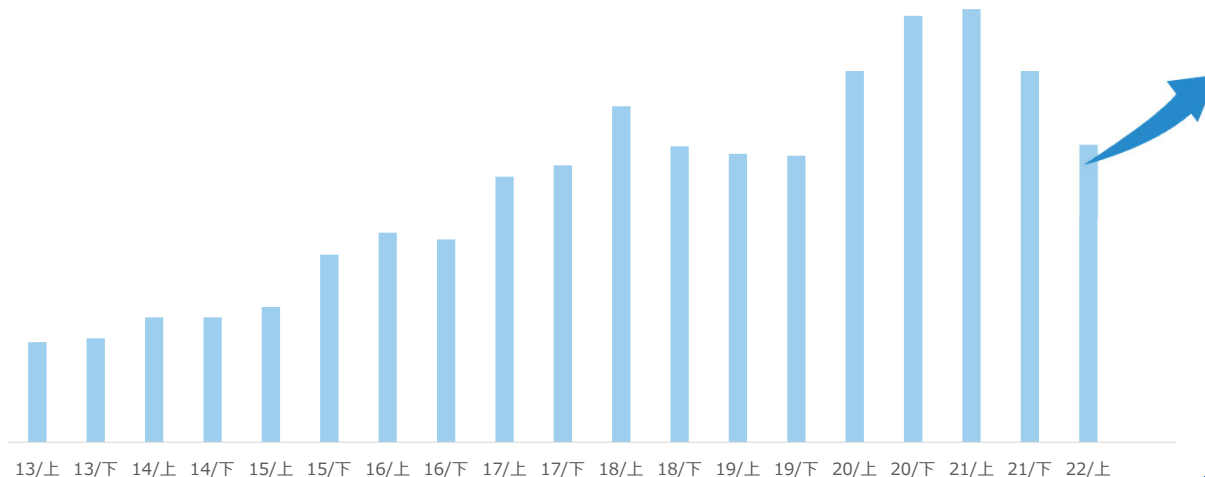
24

参考) リチウムイオン電池用セパレータの販売数量の動向

AsahiKASEI

- 市場の拡大に合わせて、中長期的に事業拡大を進めてきたが、21年度下期より、半導体不足等を背景とした自動車減産の影響による車載用途の需要減少に加えて、中国の景気後退を背景に民生用途の需要が減少したことで、販売数量が減少傾向
- 22年度下期にかけては、需要の回復により、販売数量の増加を見込む

リチウムイオン電池用セパレータの販売数量の推移 (2013年度上期の販売数量を基準)



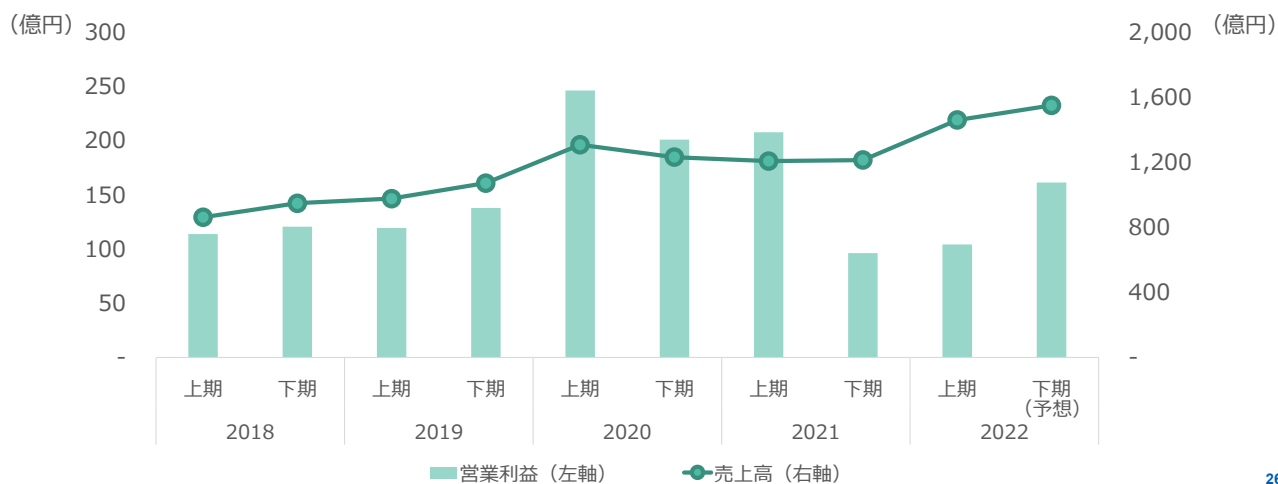
リチウムイオン電池用セパレータ「ハイポア」と「Celgard」を合わせた販売数量について、2013年度上期を基準とした推移を示している。2022年度上期は、販売数量が想定以上に落ち込んだ。民生用途は中国の景気後退を中心に全般的に需要が弱く、車載用途は、当社が注力するハイエンドの自動車の一部の車種でサプライチェーン問題等により生産量が減少したためである。下期にかけては、販売数量が回復していくと見ている。

参考) クリティカルケア事業の売上高・営業利益の動向

AsahiKASEI

➤ 2021年度下期より、部材調達難の影響を受けて除細動器の販売数量の減少やコストが上昇したこと等により利益が落ち込んだが、2022年度上期以降は改善

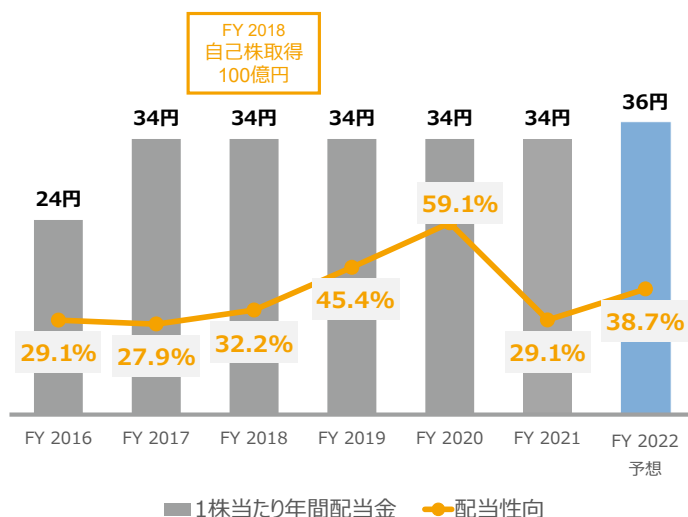
- COVID-19感染拡大による人工呼吸器需要増加のプラス影響
- Respicardia買収時の会計処理のプラス影響
- Respicardia連結によるのれん等マイナス影響
- Itamar連結によるのれん等マイナス影響



26

クリティカルケア事業の売上高と営業利益の推移を示している。2020年度から2021年度上期にかけては、COVID-19感染拡大による人工呼吸器の需要増加や、Respicardia買収時の会計処理等のプラス影響があった。一方、2021年上期以降には、RespicardiaやItamarの連結によるのれん等のマイナス影響がある。これらの要因を除くと、クリティカルケア事業は順調に拡大していると考えている。

- 2022年度の1株当たり中間配当金は18円に決定
- 2022年度の年間配当は36円を予想、業績等を見ながら自己株取得も含め更なる還元拡充を検討する



株主還元方針

- 1 中期的なFCFの見通しから、株主還元の水準を判断する
- 2 配当による株主還元を基本とし、1株当たり配当金の維持・増加を目指す
- 3 配当性向30~40% (中計3年間累計) を目安とし、配当水準の安定的向上を図る
- 4 自己株取得は資本構成適正化に加え、投資案件や株価の状況等を総合的に勘案して検討・実施する

2022年度の1株当たり中間配当金は18円とした。年間配当金は36円の計画で、配当性向は38.7%と見込んでいる。中計でも掲げているとおり、さらなる還元拡大に向け自己株式取得も継続的に検討していく。

3. 参考資料

開示区分の変更（2022年4月以降）

AsahiKASEI

セグメント	サブセグメント	事業	
マテリアル	環境ソリューション	セパレータ	
		膜・システム	
		合成ゴム・エラストマー	
	モビリティ&インダストリアル	基盤マテリアル ^{*1}	
		繊維（自動車関連）	
		エンジニアリング樹脂	
		機能性コーティング	
	ライフイノベーション	デジタルソリューション	電子材料 電子部品 UVCプロジェクト
			添加剤
			化薬
		コンフォートライフ	感光材 繊維（衣料・産業資材他）
			消費財
			旭化成アドバンス ^{*2}
住宅	住宅 建材		
ヘルスケア	医薬・医療 クリティカルケア		
その他			
消去又は全社			

【凡例】

旧 基盤マテリアル

旧 パフォーマンスプロダクツ

旧 スペシャルティソリューション

旧 その他／消去又は全社

*1 一部の製品はモビリティ&インダストリアル事業に移管している。

*2 パフォーマンスプロダクツ事業、マテリアル共通および建材事業に含まれていた旭化成アドバンスの業績を、併せてライフイノベーション事業に含めている。

マテリアルセグメント（売上高・営業利益）

(億円)

売上高	2021年度 <組替後>		2022年度 予想		前期比 増減額	前期比 増減率		
	上期	下期	上期	下期予想				
マテリアルセグメント	5,759	6,341	12,100	6,788	7,422	14,210	2,110	17.4%
環境ソリューション事業	2,482	2,745	5,226	2,913	3,177	6,090	864	16.5%
うち 基盤マテリアル事業	1,547	1,801	3,348	1,874	1,996	3,870	522	15.6%
モビリティ&インダストリアル事業	1,518	1,703	3,221	1,921	2,119	4,040	819	25.4%
ライフイノベーション事業	1,756	1,890	3,646	1,952	2,118	4,070	424	11.6%
うち デジタルソリューション事業	593	622	1,214	665	755	1,420	206	16.9%
マテリアル共通	3	4	7	3	7	10	3	42.1%

営業利益	2021年度 <組替後>		2022年度 予想		前期比 増減額	前期比 増減率		
	上期	下期	上期	下期予想				
マテリアルセグメント	585	474	1,060	406	367	773	-287	-27.1%
環境ソリューション事業	289	200	489	125	88	213	-276	-56.4%
うち 基盤マテリアル事業	190	164	354	95	38	133	-221	-62.5%
モビリティ&インダストリアル事業	132	125	258	91	73	164	-94	-36.3%
ライフイノベーション事業	191	157	348	196	190	386	38	10.8%
うち デジタルソリューション事業	89	80	169	105	115	220	51	29.8%
マテリアル共通	-27	-8	-35	-6	16	10	45	-

住宅セグメント（売上高・営業利益）

(億円)

売上高	2021年度 ＜組替後＞		2022年度 予想		前期比 増減額	前期比 増減率		
	上期	下期	上期	下期予想				
住宅セグメント	3,930	4,295	8,224	4,204	4,746	8,950	726	8.8%
住宅事業	3,758	4,107	7,865	4,010	4,540	8,550	685	8.7%
建築請負部門	1,890	2,145	4,035	1,966	2,169	4,135	100	2.5%
不動産部門	860	965	1,825	811	1,074	1,885	60	3.3%
リフォーム部門	267	257	525	261	289	550	25	4.9%
海外事業部門	731	731	1,463	968	997	1,965	502	34.4%
その他	9	9	18	4	11	15	-3	-16.8%
建材事業	171	188	359	194	206	400	41	11.4%

営業利益	2021年度 ＜組替後＞		2022年度 予想		前期比 増減額	前期比 増減率		
	上期	下期	上期	下期予想				
住宅セグメント	333	396	729	336	407	743	14	1.9%
住宅事業	320	386	706	329	396	725	19	2.7%
建築請負部門	141	223	364	162	191	353	-11	-3.1%
不動産部門	96	101	197	75	128	203	6	3.0%
リフォーム部門	26	27	52	25	33	58	6	11.4%
海外事業部門	54	22	75	64	36	100	25	32.9%
その他	4	13	17	3	8	10	-7	-38.8%
建材事業	12	11	23	7	11	18	-5	-21.7%

住宅セグメント（受注の状況、売上高の内訳）

➤ 建築請負部門の受注高は、2022年度上期は対前年比でマイナスとなったが、下期はプラスを目標とする

(単位：億円、()内は対前年同期比)

		建築請負部門						不動産部門			
		受注		売上高				売上高			
		受注高	受注残	戸建	集合	他 ^{*1}	合計	分譲	賃貸	他	合計
2020年度	上期	1,453 (-28.1%)	5,438	1,328	469	81	1,878	309	581	21	910
	下期	1,813 (-8.6%)	5,275	1,366	611	92	2,069	111	608	71	790
	通期	3,266 (-18.4%)		2,693	1,080	174	3,947	420	1,189	91	1,701
2021年度 ^{*2}	上期	2,063 (42.0%)		1,274	510	106	1,890	205	625	31	860
	下期	1,780 (-1.8%)	5,333	1,423	606	116	2,145	247	646	72	965
	通期	3,843 (17.7%)		2,697	1,116	222	4,035	452	1,271	102	1,825
2022年度 ^{*2}	上期	1,912 (-7.3%)	5,481	1,309	555	102	1,966	101	665	45	811
	下期予想	1,816 (2.0%)	5,197				2,169	304	695	75	1,074
	通期見通し	3,728 (-3.0%)					4,135	405	1,360	120	1,885

*1 一部分譲、ケア工事等。(2019年度より、従来販管費で計上していたケア工事収入を売上高に含めている。)

*2 2021年度より「収益認識に関する会計基準」を適用し、一部の取引において売上高及び売上原価の計上基準を変更している。ただし、受注残については旧基準ベースで算出した金額を表示している。

住宅セグメント（受注高、受注戸数、引渡戸数の状況*1）

2022年度上期実績

(右欄：前年同期比)

	受注高（億円）		受注戸数（戸）		引渡戸数（戸）*2	
戸建系	1,218	-16.7%	2,837	-25.9%	3,377	-8.4%
集合系	693	15.6%	2,979	-9.5%	3,008	0.4%
その他（分譲）	-	-	-	-	12	-68.4%
建築請負部門合計	1,912	-7.3%	5,816	-18.3%	6,397	-4.8%

2022年度通期予想

(右欄：前期比)

	受注高（億円）		受注戸数（戸）		引渡戸数（戸）*2	
戸建系	2,320	-12.4%	5,400	-23.7%	7,380	-7.0%
集合系	1,408	17.7%	6,050	-3.0%	6,610	-3.6%
その他（分譲）	-	-	-	-	50	-45.7%
建築請負部門合計	3,728	-3.0%	11,450	-14.0%	14,040	-5.7%

*1 受注高、受注戸数、引渡戸数、いずれも国内のみ。

*2 2021年度より「収益認識に関する会計基準」を適用し、一部の取引において売上高及び売上原価の計上基準を変更している。よって、「引渡戸数」は売上高に連動しない。

ヘルスケアセグメント（売上高・営業利益・EBITDA）

(億円)

売上高	2021年度		2022年度 予想	前期比	
	上期	下期		増減額	増減率
ヘルスケアセグメント	2,059	2,100	5,200	1,041	25.0%
医薬・医療事業	853	888	2,060	318	18.3%
医薬事業	448	486	1,110	177	18.9%
医療事業	406	403	950	142	17.5%
クリティカルケア事業	1,205	1,212	3,140	723	29.9%

営業利益	2021年度		2022年度 予想	前期比	
	上期	下期		増減額	増減率
ヘルスケアセグメント	343	179	542	20	3.9%
医薬・医療事業	136	83	256	38	17.3%
クリティカルケア事業	207	96	286	-17	-5.7%

EBITDA	2021年度		2022年度 予想	前期比	
	上期	下期		増減額	増減率
ヘルスケアセグメント	577	441	572		
医薬・医療事業	236	190	272		
クリティカルケア事業	341	251	300		

ヘルスケアセグメント（医薬事業の主要医薬品売上高）

(売上高の対象地域、単位)	2021年度		2022年度	上期	前年同期比
	上期	年間	上期	増減額	増減率
<旭化成ファーマ>					
テリボン (国内、億円)	186	382	207	21	11.5%
リコモジュリン (")	45	87	42	-3	-6.3%
ケブザラ (")	35	73	45	10	29.7%
リクラスト (")	6	13	7	0	2.3%
プラケニル (")		27	27	27	
<Veloxis>					
Envarsus XR (米国、百万ドル)	67	142	88	21	31.0%
一般名	薬効・分類		適応症	剤型	
テリボン	テリバラチド酢酸塩	骨粗鬆症治療剤（副甲状腺ホルモン：PTH）	骨折の危険性の高い骨粗鬆症	注射剤	
リクラスト	ソレドロン酸水和物	骨粗鬆症治療剤	骨粗鬆症	注射剤	
リコモジュリン	トロンボモデュリンアルファ（遺伝子組換え）	血液凝固阻止剤	DIC（汎発性血管内血液凝固症）	注射剤	
ケブザラ	ザリルマブ（遺伝子組換え）	関節リウマチ治療剤	既存治療で効果不十分な関節リウマチ	注射剤	
プラケニル	ヒドロキシクロキニン硫酸塩	免疫調整剤	皮膚エリテマトーデス、全身性エリテマトーデス	錠剤	
Envarsus XR	タクロリムス徐放製剤	免疫抑制剤	腎移植	錠剤	

ヘルスケアセグメント（医薬事業の研究開発状況）

	開発コード・剤型 (一般名)	薬効・分類	適応症	地域	自社/導入	備考	
	申請中	AK1820・注、カプセル (イザブコナゾウム硫酸塩)	深在性真菌症治療剤	真菌症	日本	導入	
国内	フェーズII	ART-123・注 (トロンボモデュリン アルファ (遺伝子組換え))	血液凝固阻止剤	化学療法誘発性 末梢神経障害	日本	自社	効能追加 日米共同フェーズI 実施中
	フェーズII	AK1830・経口	慢性疼痛治療剤	変形性関節症に伴う 疼痛	日本	導入	
	フェーズII			慢性腰痛症に伴う 疼痛			
海外	申請中	HE-69・錠 (ミゾリピン)	免疫抑制剤	ループス腎炎 ネフローゼ症候群	中国	自社	効能追加
	フェーズIII	ART-123・注 (トロンボモデュリン アルファ (遺伝子組換え))	血液凝固阻止剤	凝固異常を伴う 重症敗血症	米国・欧州 他	自社	

探索・基礎研究 成熟化・高齢化社会の中で、健康で快適な生活を送りたいという人びとの願いに応えるために、整形外科や救急・集中治療などの領域を中心に「未だ有効な治療方法がない医療ニーズ（アンメットメディカルニーズ）」の解決に取り組んでいます。自社技術の絶えざる革新と、世界の優れた技術とのコラボレーションを積極的に推進し、世界に通用する新薬の創出を進めています。

主なM&A案件（2021年4月以降）

セグメント	サブセグメント	企業名	事業内容	PL連結開始	買収金額	のれん発生額
住宅	住宅	McDonald Jones Homes Pty Ltd	豪州における注文住宅の建築請負及び分譲住宅の販売	2021年4月1日	191億円	55億円
	住宅	Focus社 (Focus Plumbing LLC等5社)	北米における住宅の建築工事	2022年11月1日	250百万USD (暫定)	未定
ヘルスケア	医薬・医療	Bionova Holdings, Inc.	バイオ医薬品製薬企業への製造プロセス開発受託、抗体医薬品GMP製造受託、次世代抗体医薬品GMP製造受託	2022年7月1日	426億円 (暫定)	398億円 (暫定)
	クリティカルケア	Respicardia, Inc.	中枢性睡眠時無呼吸症に対する植え込み型神経刺激デバイスの開発・製造・販売	2021年4月9日	307億円	144億円
		Itamar Medical Ltd.	睡眠時無呼吸症診断製品群等の開発・製造・販売	2021年12月16日	609億円	378億円 (暫定)

設備投資額、減価償却費、研究開発費

(億円)

	設備投資額			減価償却費 ^{*1}			研究開発費		
	2021年度 <組替後>	2022年度 上期	2022年度 予想	2021年度 <組替後>	2022年度 上期	2022年度 予想	2021年度 <組替後>	2022年度 上期	2022年度 予想
マテリアルセグメント	1,213	454	1,200	642	347		338	204	
環境ソリューション	650	230		323	174		86	51	
モビリティ&インダストリアル	228	76		132	74		102	58	
ライフイノベーション	335	149		188	99		149	95	
マテリアル共通	-	-		-0	-0		2	-	
住宅セグメント	186	99	220	138	76		37	19	
住宅	157	85		115	65		31	16	
建材	29	14		23	12		6	3	
ヘルスケアセグメント	249	99	290	345	211		474	222	
医薬・医療	136	40		184	107		247	91	
クリティカルケア	112	59		161	104		227	131	
その他	30	2	10	10	4		1	1	
消去又は全社	189	88	250	61	30		137	51	
合計	1,866	742	1,970	1,197	668	1,380	987	497	1,120
				(参考) のれん償却額					
				284	181				

*1 有形固定資産、無形固定資産（除く、のれん）の償却額を合算した金額で開示している。

主な設備投資案件

セグメント	サブセグメント	設備投資件名	稼働/完工 予定時期	能力	立地	
マテリアル	環境ソリューション	水力発電所改修（水ヶ崎発電所）	2025年度上期	—	宮崎県西臼杵郡	
		リチウムイオン電池用セパレータ「ハイボア」の生産能力増強	2022年度	約3億㎡/年	滋賀県守山市	
		リチウムイオン電池用セパレータ「セルガード」の生産能力増強	2023年度上期	約3.5億㎡/年	宮崎県日向市	
	モビリティ&インダストリアル	人工皮革「Dinamica（旧ラムース）」の生産設備増設	2022年度上期	約400万㎡/年	宮崎県延岡市	
		ライフイノベーション	スパンボンド不織布の生産設備増設	2022年度上期	1.5万トン/年	タイ国チョンブリ県
			結晶セルロース「セオラス」工場建設	2023年度上期	—	岡山県倉敷市
ヘルスケア	医薬・医療	ウイルス除去フィルター「ブラノバBioEX」の紡糸能力増強	2022年度下期	—	大分県大分市	
		ウイルス除去フィルター「ブラノバ」新組立工場建設	2023年度	—	宮崎県延岡市	

トピックス（2022年4月以降）

成長に向けた投資（GG10関連）

太字は今回追加分

- ◆ 旭化成メディカルによる次世代抗体医薬品CDMOの米国Bionova Scientific, LLC買取に関する契約締結（4月）、買取完了。（5月）
- ◆ 旭化成エレクトロニクスによる車載アクティブロードノイズキャンセル技術に関するイスラエルSilentium Ltd.との契約締結。（5月）
- ◆ 旭化成ファーマによる株式会社アークメディスンとの「選択的エンドセリンA受容体拮抗薬」に関する独占的ライセンス契約締結。（6月）
- ◆ **旭化成ファーマによる発作性夜間ヘモグロビン尿症に対する補体C3阻害薬「pegcetacoplan」および慢性肝疾患における血小板減少症改善薬「avatrombopag」に関する独占販売契約締結。（9月）**
- ◆ **旭化成ホームズによる住宅の建築工事を行う米国Focus社の買取（11月）**
- ◆ **水素製造用アルカリ水電解パイロット試験設備の着工（11月）**

構造転換や既存事業強化の取り組み

- ◆ 会社分割（簡易吸収分割）によるフォトマスク用ベリクル事業の三井化学株式会社への承継を決定。（5月）
- ◆ **旭化成グループのCelgardがAmerican Battery Factoryと戦略的提携契約を締結。（8月）**
- ◆ **中国での樹脂コンパウンド製造工場の生産能力増強。（10月）**

経営基盤強化

- ◆ 旭化成グループ共通のデータマネジメント基盤「DEEP」の構築を発表。（5月）
- ◆ 機能樹脂製品、合成ゴム・エラストマー製品のカーボンフットプリントデータ提供を開始。（5、6月）
- ◆ 2021年に引き続き「DX銘柄2022」に選定。（6月）
- ◆ **株式会社日本政策投資銀行の「DBJ環境格付」融資で最高ランクの格付を取得。（8月）**
- ◆ **ESG投資のための指数「FTSE4Good Index Series」「FTSE Blossom Japan Index」構成銘柄に継続採用。（8月）**

【凡例】

- ◆ : マテリアル
- ◆ : 住宅
- ◆ : ヘルスケア
- ◆ : 全社

四半期売上高推移（2019年度以降）

(億円)

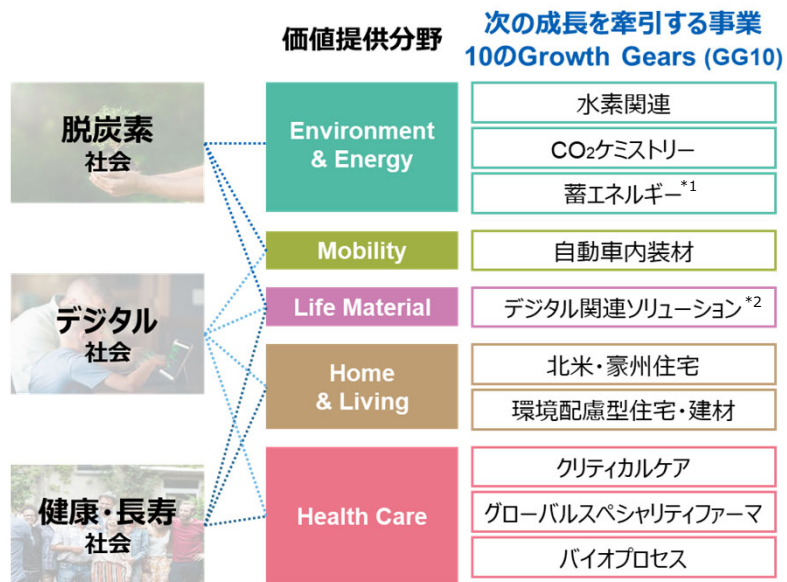
	2019年度<組替後>				2020年度<組替後>				2021年度<組替後>				2022年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	下期予想
マテリアルセグメント	2,746	2,922	2,795	2,604	2,080	2,368	2,710	2,890	2,796	2,963	3,152	3,189	3,394	3,394	7,422
環境ソリューション事業	1,168	1,241	1,187	1,047	890	951	1,065	1,237	1,191	1,290	1,373	1,372	1,499	1,414	3,177
うち 基盤マテリアル事業	755	779	768	648	537	559	644	771	724	823	902	900	1,001	873	1,996
モビリティ&インダストリアル事業	686	671	645	632	391	556	716	768	754	765	807	896	925	997	2,119
ライフソリューション事業	893	1,011	963	925	799	859	927	883	850	905	971	919	969	983	2,118
うち デジタルソリューション事業	273	304	307	285	280	281	307	275	286	306	313	309	342	323	755
マテリアル共通	0	0	-0	0	-0	3	2	2	0	3	2	2	2	2	7
住宅セグメント	1,414	1,855	1,525	2,115	1,478	1,848	1,702	1,771	1,951	1,979	2,183	2,112	2,066	2,138	4,746
住宅	1,306	1,743	1,419	2,025	1,391	1,753	1,610	1,694	1,872	1,886	2,085	2,022	1,975	2,035	4,540
建材	108	112	107	90	88	95	92	76	79	93	98	90	92	103	206
ヘルスケアセグメント	827	849	835	867	957	1,092	1,030	1,000	1,058	1,001	1,070	1,030	1,214	1,241	2,745
医薬・医療	343	358	323	309	365	378	407	394	428	426	468	421	505	485	1,071
クリティカルケア	484	491	512	558	592	714	623	606	630	575	603	609	710	756	1,674
その他	34	39	43	45	36	35	30	33	30	33	32	35	30	35	85
合計	5,021	5,666	5,199	5,631	4,552	5,342	5,473	5,694	5,834	5,976	6,437	6,366	6,704	6,808	14,998

四半期営業利益推移（2019年度以降）

(億円)

	2019年度<組替後>				2020年度<組替後>				2021年度<組替後>				2022年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	下期予想
マテリアルセグメント	245	299	211	120	80	110	209	230	311	275	298	176	268	139	367
環境ソリューション事業	95	139	89	14	19	44	82	130	143	145	138	62	102	24	88
うち 基盤マテリアル事業	84	102	58	-3	-10	20	42	89	82	108	100	64	83	12	38
モビリティ&インダストリアル事業	63	64	40	35	-33	8	39	63	82	50	54	71	52	39	73
ライフソリューション事業	76	99	83	67	82	66	90	55	102	89	108	49	121	75	190
うち デジタルソリューション事業	18	34	32	35	31	28	38	36	43	46	46	34	67	38	115
マテリアル共通	11	-3	-1	4	12	-8	-3	-18	-16	-11	-2	-6	-6	1	16
住宅セグメント	99	228	133	265	106	209	164	152	151	181	223	173	153	183	407
住宅	88	213	121	252	98	196	155	148	147	173	213	173	150	179	396
建材	12	14	17	10	10	13	11	0	4	8	10	0	3	4	11
ヘルスケアセグメント	126	133	99	77	155	199	204	118	205	138	159	20	148	110	284
医薬・医療	68	72	38	1	57	51	88	34	76	59	90	-7	100	45	110
クリティカルケア	59	61	61	77	98	148	117	84	129	78	69	27	48	65	173
その他	5	9	10	12	8	10	9	15	5	12	9	15	6	12	14
消去又は全社	-63	-64	-67	-104	-48	-61	-58	-92	-67	-79	-80	-98	-81	-79	-159
合 計	413	604	385	370	301	467	527	423	605	526	609	286	494	364	912

新中期経営計画における成長牽引事業（GG10）



*1 セバレータ事業等

*2 電子部品事業、電子材料事業等

注記

- EBITDA = 営業利益 + 減価償却費（有形、無形、のれん）
- 2021年度より「収益認識に関する会計基準」を適用し、一部の取引において売上高及び売上原価の計上基準を変更している。
- セグメント別の営業利益は各セグメント内の事業間取引の消去を含んでいるため、事業別の営業利益を単純合算した数字とは一致しない。

IRカレンダー

**2022年度第3四半期決算
決算発表予定日**

2023年2月8日（水）

AsahiKASEI

Creating for Tomorrow

私たち旭化成グループの使命。

それは、いつの時代でも世界の人びとが“いのち”を育み、
より豊かな“くらし”を実現できるよう、最善を尽くすこと。

創業以来変わらぬ人類貢献への想いを胸に、

次の時代へ大胆に応えていくために一。

私たちは、昨日まで世界になかったものを創造し続けます。

